第2表　ペヘレイの産卵状況

No. ＼ 項目	配合日	産卵日	配合♀数	産卵魚数	産卵率
1	4.9	4.10	35	16	45.7
2	4.10	4.11	32	10	31.3
3	4.11	4.12〜13	21	11	52.4
4	4.13	4.14	44	14	31.8
5	4.14	4.15	31	10	33.3
6	4.15	4.16〜17	32	9	28.1
7	4.17	4.18〜20	29	21	72.4
8	4.20	4.21	35	22	62.9
9	4.21	4.22〜24	26	12	46.2
10	4.24	4.25〜27	28	20	71.4
11	4.27	4.28〜30	23	19	82.6
12	5.6	5.7〜8	19	10	52.6
13	5.8	5.9〜11	22	12	54.5
14	5.11	5.12〜13	16	7	43.8
15	5.13	5.14〜15	8	3	37.5
16	5.15	5.16	17	10	58.8
17	5.18	5.24〜29	10	3	30.0
18	5.28 29	5.29〜30	28	11	39.3
19	6.2	6.3〜4	15	10	66.7
計		40	471	230	48.8

ペヘレイの種苗生産

石崎博美・岡 彬・小山定久

昨年に引き続き、丹沢湖への種苗放流を目的として、ペヘレイの種苗生産を行ったので、その結果について報告する。

採卵およびふ化

採卵とふ化の結果を第1表に示した。本年度は、昨年より10日程早く産卵の兆候が現われ、4月9日から採卵を開始した。採卵方法は、本年度から本格的にパンライト水槽(外側を黒ペンキで塗装した1t容量のもの)で産卵させる方法を取り入れた。

採卵の期間は、延べ57日間で、6月4日に終了した。産卵の状況を第2表に示した。

採卵数は、ふ化仔魚数とふ化率の値から逆算して算出し、1,380千粒とした。ふ化仔魚数の合計は324千尾で、その平均ふ化率は、23.5%であった。卵のふ化には500ℓのパンライト水槽6個を用いた。ふ化用水は、汽水(アレン処方の人工海水Cℓ 4%)を使用した。ふ化用水の水温測定結果は第3表に示したとおりである。

第1表　ペヘレイの採卵ふ化状況

A 採卵期間	56.4.9〜6.4
B 使用親魚数	延べ471尾(産卵したもの230尾)
C 産卵日	36日
D 採卵数	1,380,000粒
E 発眼卵数	983,900粒
F E/D発眼率	71.3%
G ふ化仔魚数	324,000尾
H G/Dふ化率	23.5%

第2表　ペヘレイの産卵状況

No.＼項目	配合日	産卵日	配合♀数	産卵魚数	産卵率
1	4. 9	4.10	35	16	45.7
2	4.10	4.11	32	10	31.3
3	4.11	4.12〜13	21	11	52.4
4	4.13	4.14	44	14	31.8
5	4.14	4.15	31	10	33.3
6	4.15	4.16〜17	32	9	28.1
7	4.17	4.18〜20	29	21	72.4
8	4.20	4.21	35	22	62.9
9	4.21	4.22〜24	26	12	46.2
10	4.24	4.25〜27	28	20	71.4
11	4.27	4.28〜30	23	19	82.6
12	5. 6	5.7〜8	19	10	52.6
13	5. 8	5.9〜11	22	12	54.5
14	5.11	5.12〜13	16	7	43.8
15	5.13	5.14〜15	8	3	37.5
16	5.15	5.16	17	10	58.8
17	5.18	5.24〜29	10	3	30.0
18	5.28 29	5.29〜30	28	11	39.3
19	6. 2	6.3〜4	15	10	66.7
計		40	471	230	48.8

仔稚魚の飼育概要

飼育池

仔稚魚の飼育は、B試験池（7.2㎡×4面、9.0㎡×2面）と、屋外のコンクリート飼育池2面（99㎡×2面）を用いた。

用水

源水には湧水を使用した。B試験池では、汽水（アレン処方Cℓ 4‰。）を循環　過して使用した。屋外飼育池では湧水を少量（10ℓ／分～15ℓ／分）注水し、半流水式とした。

放養尾数

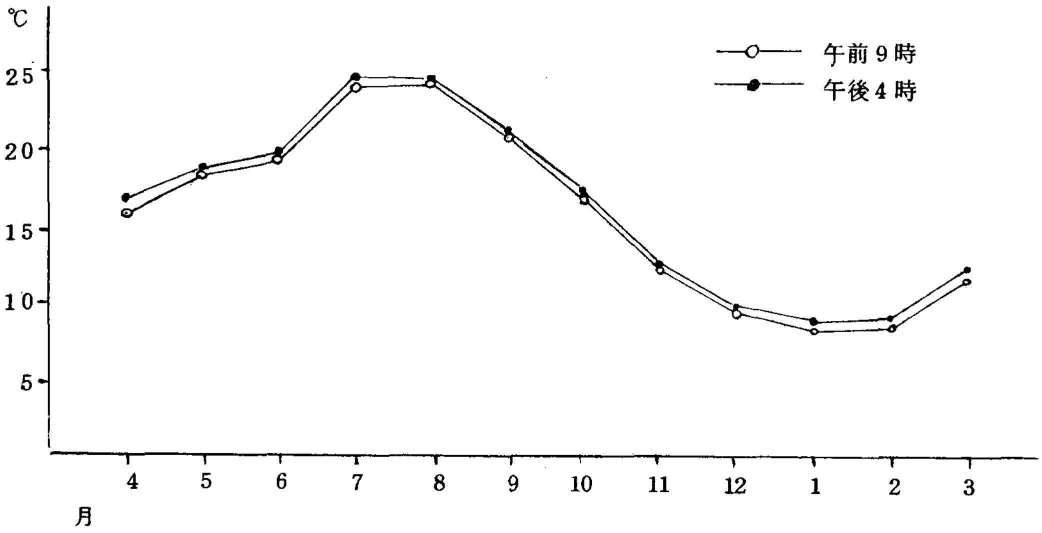
仔魚の初期放養尾数は、5,000尾／㎥～11,600尾／㎥の範囲で、その平均放養数は、9,080尾／㎥であった。

飼育餌温

ペヘレイ仔稚魚の飼育期間中の水温を第1図に示した。

第3表ペヘレイ卵のふ化用水水温(℃)

月	旬＼時	9 時	4 時
4	中	15.9	18.4
	下	18.3	20.6
5	上	19.0	20.3
	中	17.2	17.8
	下	17.9	19.1
6	上	18.9	20.0
	中	20.2	20.7



第1図　ペヘレイの飼育水温（B試循環濾過池）

飼　餌　料

初期餌料は、パン酵母とクロレラで培養したシオミズツボワムシに、市販のアユ用初期飼料を併用して与えた。ふ化後３０日を経た仔稚魚には、パン酵母で培養したモイナを、１日１回給餌した。これらの給餌量については、第４表にとりまとめた。

魚　　病

ペヘレイ稚魚に発生した病気と、その処置については第５表にまとめた。

第４表　ペヘレイ稚魚の給餌量

餌　料　名	給　餌　量	給餌期間
シオミズツボワムシ	1,526,240万個	4／28～8／1
モ　イ　ナ	64,900　g	5／20～8／19
配　合　飼　料	92,000　g	5／20～57.3／31

第５表　ペヘレイに発生した魚病と処置

区　分	魚　病　名	処　　置	効　果
稚　魚	トリコディナ	マラカイドグリーン0.3ｐｐｍ１時間浴	あ　り
	キロドネラ	食塩１％　１時～２時間浴	あ　り
	細菌性魚病	食塩１％　１～２時間浴 フラネース0.5ppm　１時間 動物用テラマイ経口投与	あ　り
成　魚 親　魚	水カビ病	食塩１％浴 マラカイドグリーン0.25ppm 浴 テラマイ経口投与	一部効果 あ　り

種　苗　生　産　結　果

生産数と歩留り

本年度の種苗生産の結果を第６表に示した。このうち、本年度に採卵ふ化して得た種苗の、延べ生産数は７1,０００尾で、その生産歩留りは､ふ化仔魚数（３２４千尾）に対して２1.９％であった。

第 6 表　　ペヘレイの生産結果

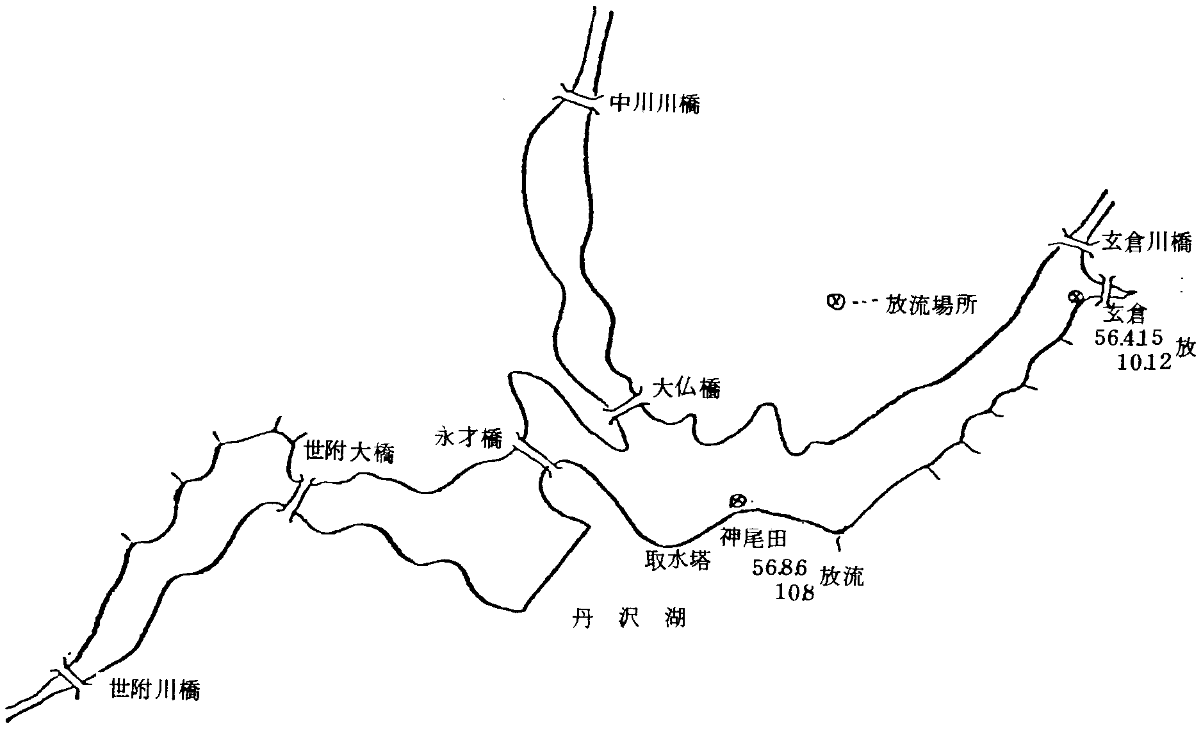
	尾　　数	平均体重(g)	備　　考
放　流　用	66,000	0.6	丹沢湖へ放流（内訳別記）
親魚養成用	11,000	1.4	親魚養成用として引き続き飼育
計	77,000		

放　　流

ペヘレイ種苗の放流状況を第7表に、放流場所を第2図に示した。放流は、前年度からの繰越魚（平均体長51.3㎜）6,000尾を、4月15日に放流したのをはじめとして、本年度のふ化稚魚を、8月6日から10月12日まで3回に分けて、延べ60,000尾を放流した。したがって、本年度の放流数の合計は、66,000尾で、放流後の残りは親魚養成用として、引き続き飼育した。

第 7 表　　ペヘレイの放流状況（丹沢湖）

項目／回	放流月日	放流尾数	体長(㎜) 範囲	体長(㎜) 平均	体重(g) 範囲	体重(g) 平均	放流場所
1	56. 4.15	6,000※	42〜64	51.3	0.3〜1.7	0.92	玄倉地先
2	56. 8. 6	23,000	15〜26	19.7		0.08	神尾田地先
3	56.10. 8	16,000	27〜58	38.7	0.3〜2.2	0.64	同　上
4	56.10.12	21,000	27〜59	44.0	0.5〜1.7	0.85	玄倉地先
計		66,000					



第２図　ペヘレイの放流場所

要　　　　　　約

1. 県内の丹沢湖に、ペヘレイの定着化を図るため、昨年に引き続き種苗生産を実施した。

2. 昭和５６年４月９日から６月４日まで、ペヘレイ親魚２３０尾から、1,３８０千粒を採卵した。

3. 得られたふ化仔魚数は３２４千尾で、平均のふ化率は、２３.５％であった。

4. 本年度の種苗生産数は、前年度からの繰越稚魚６千尾と本年度に得た稚魚７１千尾の合計７７千尾であった。

5. 丹沢湖への放流は、４月１５日から１０月１２日までの間４回に分けて実施し、延べ６６千尾を放流した。